

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	松田 知佐子	学校名	石川県白山市立朝日小学校
実施学年	4年	教 科	算数
単元名	わり算のしかたを考えよう		

《学びを深めたいポイント》

第3学年では、 $12 \div 3$ 、 $13 \div 3$ などのような乗法九九を1回用いて商を求める計算を扱ってきている。第4学年では、除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の除法について考える。

本単元では、児童がわり算の筆算の方法を形式的に覚えるのではなく、わり算の意味や性質を理解できるようにしたい。そのために、図や具体物を用意してそれらを操作させ、わり算の意味や性質を捉えて計算の仕方を説明できるようにしたい。

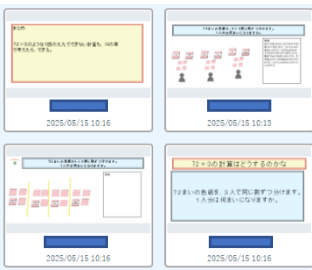
また、計算の仕方を説明する時間を設定し、わり算の理解を深められるようにしたい。

《SKYMENU 活用のポイント》

- ・学級内での理解度に差が大きいため、書かれているヒントが異なる発表ノートを3つ用意し、自分に合った進め方を選べるようにする。
- ・ライブ提出箱を使い、お互いの考え方を相互参照できるようにする。
- ・資料置き場に、10のまとまりの色紙とばらの色紙の図を入れておき、子どもたちが考えを表現する際にいつでも使えるようにしておく。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	1 課題をつくる ○前はどんな学習をしたかな ・ $80 \div 4$ の計算のしかたを説明したよ。 ・ $80 \div 4$ や $600 \div 3$ は、10や100の束で考えると今まで通りのわり算と変わらなかったよ。 ○今日の問題は今までとなにが違うかな。 72まいの色紙を、3人で同じ数ずつ分けます。 1人分は何まいになりますか。 ・ 式は $72 \div 3$ だな。 ・ 一回の九九じゃできない。どうしたらいいんだろう。 < $72 \div 3$ の計算はどうしたらできるかな >		
展 開	2 課題を解決する ○ $72 \div 3$ の計算はどうしたらできるかな。 ・ 図をつかったらできそうだな。 ・ 式やことばで考えてもできそうだな。	・ 紙を使って説明するか、SKYMENU を使って説明するか選択できるようにする。	・ 自己決定の場を設けることで、自ら考えたいと思えるようにする。

	・前回みたいに、10の束にしたらできないかな。 ・1人分は大体20枚くらいになりそうだな。  ○計算の仕方を説明してみよう。 ・同じ考え方だったよ。 ・友達の説明を聞いて、図ではなく式で考えるやり方もわかったよ。 ○友達に説明したものを、全体に説明できるかな。 ・ぼくは、10のたばとばらにわけて考えました。 ・説明の仕方は違うけど、10のたばとばらで考えるのはわたしと同じだな。 ○適用問題をしよう。52÷4でも、同じように考えられるかな。 ・まず、10のたばを4人でわけて、のこりの4まいも4人でわけて、こたえは、12+1=13。 ・52より小さくて4で割り切れる何十の数は、40。40まいを4人でわけろ。のこりの12まいを4人で分ける。10+3=13で、1人分は13まい。	・3種類の発表ノートを用意する。 ・資料置き場に、10のまとまりの色紙とばらの色紙の図を入れておく。 ・発表ノートをライブ提出箱に提出させる。  ・適用問題のノートを用意しておく。	・進度に合わせた発表ノートを用意することで、自分に合った難易度で計算の仕方を説明できるようにする。 ・10のたばでわけて考えられることに気づきやすくし、図で表現できるようにする。 ・ライブ提出箱を見ながら、同じヒントカードを使っている児童同士で交流したり、違うヒントカードを使っている児童と交流したりする場を設け、わり算の計算の意味の理解を深める。 ・適用問題が書かれているノートを用意しておくことで、72÷3の計算方法が考えられた児童がどんどん自分のペースで進められるようにしておく。
まとめ	3 まとめと振り返りをする ○◆■÷●の計算は、どうしたらできたかな。 10のたばでわけて考えたらできることがわかった。 ○振り返りをしよう。 ・10のまとまりで考えたらよいことがわかった。 ・筆算はないのかな。		

《実践を振り返って》

- ・発表ノート上で色紙を操作することで、子どもたちが自分の考えをたしかめることができていた。
- ・3種類の発表ノートを用意することで、それぞれのペースで課題に向かうことができていた。
- ・ライブ提出箱を使うことで、他の児童の考えを参照したり、同じヒントカードを使っている人、使っていない

人同士で交流することができていた。

- ・資料置き場に色紙の写真をいれておくことで、計算の仕方を表現する際に活用できていた。ただし、最初から資料置き場に入れておくのではなく、児童が「こんな図が欲しい!」と思った時に配付するとより効果的だった。

実践レポートご提出の際は、この一文も含めて以下の文章は削除してからご提出ください。